

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

所属する研究室の指導教官

【授業目的及び達成目標】

各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得する。

【授業内容及び授業方法】

各指導教官のもとで、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教官の指示による。

【教科書】

指導教官の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

所属する研究室の指導教官

【授業目的及び達成目標】

各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得する。

【授業内容及び授業方法】

各指導教官のもとに、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教官の指示による。

【教科書】

指導教官の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

所属する研究室の教員

【授業目的及び達成目標】

所属する研究室の生物機能工学研究分野において、実験計画の作成をはじめ、実験の遂行、実験結果の解析と考究などのプロセスを体験し、自立して研究を遂行できる能力を習得する。

【授業内容及び授業方法】

各研究室において、学生の希望と指導教官の指導によって決めた一つの研究テーマについて研究実験・計算を行い、得られた成果を纏め上げる。日常的な指導と、経過あるいは纏まった形での定期的な発表における指導の両面から行う。

【授業項目】

指導教官の指示による。

【教科書】

指導教官の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

日常の研究遂行の程度及び定期的な発表会での発表方法・態度等によって評価する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

所属する研究室の教員

【授業目的及び達成目標】

所属する研究室の生物機能工学研究分野において、実験計画の作成をはじめ、実験の遂行、実験結果の解析と考究などのプロセスを体験し、自立して研究を遂行できる能力を習得する。

【授業内容及び授業方法】

各研究室において、学生の希望と指導教官の指導によって決めた一つの研究テーマについて研究実験・計算を行い、得られた成果を纏め上げる。日常的な指導と、経過あるいは纏まった形での定期的な発表における指導の両面から行う。

【授業項目】

指導教官の指示による。

【教科書】

指導教官の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

日常の研究遂行の程度及び定期的な発表会での発表方法・態度等によって評価する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

所属する研究室の指導教官

【授業目的及び達成目標】

各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得する。

【授業内容及び授業方法】

各指導教官のもとに、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教官の指示によるが、学生の希望によることもある。

【教科書】

指導教官の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

所属する研究室の指導教官

【授業目的及び達成目標】

各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得する。

【授業内容及び授業方法】

各指導教官のもとに、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教官の指示によるが、学生の希望によることもある。

【教科書】

指導教官の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【担当教員】

本多 元(HONDA Hajime)・未定

【教員室または連絡先】

生物棟657, Build. Dep. BioEng. 6F 657, tel:0258-47-9421

【授業目的及び達成目標】

バイオエンジニアとして社会で活躍するための、技能、マナーなどを学び、技術者としてのスキルアップを図る。

【授業キーワード】

自己分析、企業研究、グループディスカッション、面接体験、評価体験

【授業内容及び授業方法】

4回の集中講義とする。
毎回決まったテーマについて、概論的な説明・解説を行った後、
数人のメンバーによるグループに分かれて技能・マナーに関するスキルアップを実践する。

【授業項目】

バイオ関連業界/企業研究の必要性
自己分析の必要性
自己分析の方法例
自己PRの方法
PR評価の実践
グループディスカッションとは
グループディスカッションにおける注意点
模擬プレゼンテーションとその評価

【教科書】

授業の最初に配布する。

【参考書】

なし。

【成績の評価方法と評価項目】

毎回レポート課題を課すので、この評価の平均を授業全体の評価とする。
出席は評価対象としない。

【留意事項】

必須科目ではないが、社会人となるための必要事項を講義するので、履修することを強く推奨します。

【担当教員】

岡田 宏文 (OKADA Hirofumi)

【教員室または連絡先】

生物1号棟357室
Room 357, Bioengineering Bld.

【授業目的及び達成目標】

生化学反応である代謝を担うタンパク質の特に発現制御・調節についてその基礎と応用を学ぶことを目的とする。

The learning objective of this course is to provide students with fundamental and practical knowledge on molecular mechanism underlying regulation of the protein expression especially concerning metabolic enzymes.

【授業キーワード】

遺伝子発現、転写、翻訳、転写調節、翻訳後修飾、ソーティング、分泌、シャペロン
gene expression, transcription, translation, transcriptional regulation, post-translational modification, sorting, secretion, chaperone

【授業内容及び授業方法】

遺伝子の発現からタンパク質の機能発現までの分子機構について説明しその応用例を述べる。

Lecture is focused on functional expression from gene to protein at the molecular level. Its practical aspects will be also discussed.

【授業項目】

1. 遺伝子の発現
 2. 転写調節 (原核細胞1)
 3. 転写調節 (原核細胞2)
 4. 転写調節 (原核細胞3)
 5. 転写調節 (真核細胞1)
 6. 転写調節 (真核細胞2)
 7. 転写調節 (真核細胞3)
 8. タンパク質の細胞内輸送 (概観)
 9. タンパク質の細胞内輸送 (小胞体 1)
 10. タンパク質の細胞内輸送 (小胞体 2)
 11. タンパク質の細胞内輸送 (ゴルジ体、リソソーム、分泌)
 12. タンパク質の細胞内輸送 (ミトコンドリア)
 13. タンパク質の細胞内輸送 (葉緑体)
 14. タンパク質の細胞内輸送 (ペルオキシソーム)
 15. タンパク質の細胞内輸送 (核)
1. gene expression
 2. transcriptional regulation (prokaryote 1)
 3. transcriptional regulation (prokaryote 2)
 4. transcriptional regulation (prokaryote 3)
 5. transcriptional regulation (eukaryote 1)
 6. transcriptional regulation (eukaryote 2)
 7. transcriptional regulation (eukaryote 3)
 8. intracellular transport of protein (survey)
 9. intracellular transport of protein (endoplasmic reticulum 1)
 10. intracellular transport of protein (endoplasmic reticulum 2)
 11. intracellular transport of protein (Golgi body, lysosome, secretion)
 12. intracellular transport of protein (mitochondrion)
 13. intracellular transport of protein (chloroplast)
 14. intracellular transport of protein (peroxisome)
 15. intracellular transport of protein (nucleus)

【教科書】

特に指定しない。プリントを配布する。
No textbook is specified. Handouts will be used.

【参考書】

Molecular Cell Biology, 5th ed. by Lodish et al.
Molecular Biology of the Cell, 5th ed. by Alberts et al.

【成績の評価方法及び評価項目】

出席率6割以上の者にレポートを課し、レポートにより評価する。

The grading for the course will be based on the evaluation of reports that students whose attendance rate is more than 60% will submit at the end of the course.

【留意事項】

分子生物学の知識が必要である。遺伝子工学、生化学を理解していることが望ましい。

Enrollment of this course requires basic knowledge on molecular biology. The student will be expected to understand some basic genetic engineering and biochemistry.

【担当教員】

小笠原 渉(OGASAWARA Wataru)

【教員室または連絡先】

生物1号棟 356

【授業目的及び達成目標】

低炭素化社会における新たな工業製品製造プロセスについて、オイルリファイナリー時代からバイオリファイナリー時代への展開が世界的に進められている。再生可能な生物資源を、将来の唯一利用可能な資源としておよび環境保護の立場からの重要な資源として、「炭素」をいかにして化学原料・エネルギーへ利用しようとしているかについて、自然循環型の新エネルギーおよび化学製品原料生産の新たな展開について講義する。再生可能な生物資源を、将来の唯一利用可能な資源としておよび環境保護の立場からの重要な資源として、認識・理解することを目的とする。食糧・化学原料・エネルギーへのその利用技術を現行の産業として成立している技術と対比させながら理解できるようにする中で、バイオテクノロジーの種々な手法も習得する。

【授業キーワード】

生物資源、バイオマス、酵素、遺伝子、アルコール発酵、メタン発酵、CO2固定、地球環境

【授業内容及び授業方法】

再生可能な生物資源の将来の重要性、特に非食料系バイオマス(リグノセルロース)について地球環境との関連性を詳述するとともに、バイオテクノロジー面からの利用技術について最近の動向を加えて講義する。また、他の生物資源の利用技術についても紹介する。
資料を配付し、それに則してプロジェクターを使いながら講義する。

【授業項目】

1. 生物資源(バイオマス資源)とは――地球環境との関わりで重要(2回)
2. セルロース系バイオマスの分解と利用(6回)
イ)リグニン・ヘミセルロース・セルロース
ロ)分解微生物と酵素(セルラーゼを中心として)
ハ)アルコール発酵
3. 澱粉資源の分解と利用(1回)
4. キチン・キトサンの分解と利用(2回)
5. 二酸化炭素固定、メタン発酵および微生物による水素生産(3回)
6. その他(エネルギー植物や微生物によるエネルギー生産)(1回)

【教科書】

特に指定せず、教員作成のプリントおよびプロジェクターを用いる。

【参考書】

特に指定せず。

【成績の評価方法と評価項目】

学習態度と小レポート(30%)および最終レポート(英語論文の要約)(70%)による評価。

【留意事項】

生化学、微生物学、酵素工学の基礎が必要。

【参照ホームページアドレス】

<http://bio.nagaokaut.ac.jp/~Ogasawaralab/>

【担当教員】

城所 俊一 (KIDOKORO Shunichi)

【教員室または連絡先】

生物棟756室(Room#756, Department of Bioengineering)

【授業目的及び達成目標】

蛋白質の立体構造と物理化学的相互作用に基づいて、蛋白質の立体構造安定性と分子機能について、最近の熱力学的測定の見解を元に理解する。これらを体系的に理解した上で、新規な構造・物性・機能を持つ蛋白質について合理的に分子設計するための基礎的な知識や技能を修得することを到達目標とする。(Based on the three-dimensional structure and physicochemical interaction, the mechanism of the protein structure and the molecular function is understood using the recent results from the thermodynamic methods. The fundamental knowledge and technique are achieved for the rational design of protein molecules with novel structure, physical property or function.)

【授業キーワード】

蛋白質立体構造、熱力学的安定性、分子機能、統計熱力学、熱測定
(three-dimensional structure of protein, thermodynamic stability, molecular function, statistical thermodynamics, calorimetry)

【授業内容及び授業方法】

蛋白質の立体構造・物性・機能について熱力学に扱う手法を基礎から解説する。特に、熱測定によって得られる情報について詳細に考察する。(The fundamental knowledge and technique to understand the protein structure, property and function are reviewed. Especially the recent results by calorimetry are discussed.)

【授業項目】

1. 蛋白質の立体構造・物性・機能を理解するための熱力学的基礎 (Basic thermodynamics for understanding protein structure, physical property, and function)
2. 生命科学のための微量熱測定法 (Microcalorimetry for bioscience)
 - 2.1. 熱量測定と熱力学関数 (Calorimetry and thermodynamic functions)
 - 2.2. Differential scanning calorimetry (DSC)
 - 2.3. Isothermal titration calorimetry (ITC)
 - 2.4. 動的および静的な熱量測定 (Dynamic and static analysis of calorimetry)
3. 蛋白質立体構造の安定性 (Stability of the three-dimensional structure of protein)
 - 3.1. 小さな球状蛋白質の2状態熱転移 (2-state thermal transition of small globular proteins)
 - 3.2. 様々な溶媒条件変化による立体構造転移 (Structure transition caused by several solution conditions)
 - 3.3. 多状態転移 (Multi-state thermal transition)
 - 3.4. 多量体蛋白質の熱転移 (Thermal transition oligomeric proteins)
4. 分子間相互作用の評価 (Evaluation of molecular recognition)
 - 4.1. 強および弱結合条件 (Strong and weak binding condition)
 - 4.2. 等温滴定熱量測定法(ITC)による蛋白質リガンド相互作用評価 (Protein-ligand interaction evaluated by ITC)
 - 4.3. 示差走査熱量測定法(DSC)による蛋白質リガンド相互作用評価 (DSC for protein-ligand interaction)
5. 触媒活性評価 (Evaluation of catalytic activity)
 - 5.1. ITCによる反応速度評価 (Reaction rate evaluated by ITC)
 - 5.2. ミカエリス・メンテン式 (Michaelis-Menten equation)
 - 5.3. 蛋白質分解酵素の活性評価 (Evaluation of protease activity)
 - 5.4. 糖加水分解酵素の活性評価 (Evaluation of glucanase activity)

【教科書】

プリントを適宜配布する。(Printed materials will be distributed.)

【成績の評価方法と評価項目】

講義項目に関連したレポートにより目標への到達度を評価する。(The submitted report will be evaluated.)

【留意事項】

この講義を履修するためには、蛋白質分子の基礎と熱力学の基礎を修得していることが必要である。例えば、学部の専門科目「生物物理学II」、「蛋白質工学」を履修したものと同等の基礎知識を持つことを前提とする。(The basic knowledge on the protein molecule and thermodynamics is required to attend this class. For example, the course, "Biophysics II", "Protein Engineering", are strongly recommended to be finished.)

【担当教員】

高原 美規 (TAKAHARA Yoshinori)

【教員室または連絡先】

生物1号棟557室
Room 557, Bldg. of BioEngineering

【授業目的及び達成目標】

植物の遺伝学および育種学について理解し最近の応用の実例を紹介する。

The aim of this course is to lead understanding genetics and plant breeding systems and introduction to recent applications of new technologies on plant breeding.

【授業キーワード】

遺伝、植物育種、形質、変異、植物工学、遺伝子組換え
Genetics, Plant Breeding, Characteristics, Variation, Plant Biotechnology, Genetically Modified Organisms

【授業内容及び授業方法】

遺伝学の基礎および育種の流れ、生物工学の意義と最新の技法について説明した後に、それらを利用した最新の応用例を取り上げ、最近の論文を紹介して、その具体的な実験方法、学術的意義について論ずる。

Basic principles of genetics and plant breeding systems will be lectured by introducing methodology and recent practical applications in the field of plant biotechnology.

【授業項目】

遺伝学の基礎
Basic Genetics

遺伝変異と環境変異
Genetic Variations and Environmental Variation

変異の作出
Enlargement of Genetic Diversity

生物工学と育種
Plant Biotechnology and Breeding

他

【教科書】

特に定めない。

None

【成績の評価方法と評価項目】

レポート20%+最終試験80%

Based on the evaluation of reports(20%) and final exam(80%)

【留意事項】

遺伝学、育種学、細胞学、分子生物学に関して基礎的な知識を備えていることが望ましい。
生物機能工学課程専門科目「遺伝育種学」の単位未修得者には履修を薦めない。

Basic knowledge of genetics, breeding systems, Cellular biology and Molecular biology is required.

【担当教員】

渡邊 和忠 (WATANABE Kazutada)

【教員室または連絡先】

Part-time Lecturer

【授業目的及び達成目標】

Objectives:

Objectives of this course are

1. to provide students with knowledge on the molecular mechanisms underlining differentiation and migration of neural cell, and formation of the neural network during development of the nervous system.
2. to facilitate understanding the neural plasticity in adult brain at a molecular level.

【授業キーワード】

Keyword:

differentiation of the neuron and glia cells, migration of the neural cells, axonal guidance, neurotrophic factors, synaptic plasticity

【授業内容及び授業方法】

Outline of the Lecture and Methods of Presentation:

Lecture will focus on the development and function of the brain at a molecular level. Essential functions of various molecules during development of the nervous system will be discussed in detail. Recent papers related to the lecture will also be introduced. The PowerPoint presentations together with distributed lecture materials will be used.

【授業項目】

Contents:

1. Neural induction
2. Differentiation of neural cells
2. Brain formation and gene expression
3. Formation of the cerebral and cerebellar cortices
3. Activity dependent formation of the neural network
4. Neurotrophic factors and their functions
5. Synaptic plasticity and higher order function of the brain

【教科書】

Text book:

Development of the Nervous System Sane, D. H., Reh, T. A. & Harris, W. A. Academic Press.

【参考書】

Recommended reading list:

1. Neuroscience Bear, M. F., Connors, B.W. & Paradiso, M. A. Williams & Wilkins
2. From Neuron to Brain 4th edition, Nicholls, J. G., Martin, A. R., Wallace, B. G. & Fuchs, P. A. Sinauer Associates, Inc. Publishers

【成績の評価方法と評価項目】

Grading for the course:

The grading for the course will be based on the evaluation of reports that students will submit at the end of the course.

【留意事項】

Prerequisites:

Enrollment in this course requires basic knowledge on cell biology and neuroscience that is lectured in the cell biology and neuroscience course held in the undergraduate school.

【担当教員】

下村 雅人 (SHIMOMURA Masato)

【教員室または連絡先】

生物1号棟256室

【授業目的及び達成目標】

生物関連物質を固定化・複合化し、工学的により利用しやすい形態へと転換することで、材料としての高度利用が進んでいる。また、生体系と類似の機能を具備した合成材料も開発されつつある。こうした新規技術分野で高分子がどのような役割を演じているかを理解し、当該分野における高分子材料の重要性を認識する。

【授業キーワード】

高分子材料、生物関連物質、酵素、固定化、複合材料、触媒、センサー、分離、エネルギー変換

【授業内容及び授業方法】

先ず、高分子を用いた酵素、各種機能性タンパク質等の固定化・複合化技術と工業触媒、センシングデバイス等への応用事例を紹介しながら、生物材料分野での高分子利用の新展開について論述する。次いで、生体系の機能を模擬した合成高分子材料とその利用についての事例を紹介し、高分子の性質と材料機能との関係について理解を深める。

【授業項目】

1. 高分子材料の利用形態(第1週)
2. 高分子の薄膜化(第2週、第3週)
3. 高分子を用いる生物関連物質の固定化・複合化と応用(第4週～第6週)
4. 生体系の機能を模擬した合成高分子材料(第7週～第10週)
5. 高分子の性質と機能設計(第11週)
6. 生物機能工学において合成高分子の果たす役割(第12～第15週)

【教科書】

特に定めない。

【参考書】

「固定化酵素」(千畑一郎 編集)講談社、「バイオセンサー」(鈴木周一 編)講談社

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
レポートに基づいて評価する。
2. 評価項目
(1)生物系素材の高度利用における合成高分子の役割について理解したか。
(2)生物機能と密接に関連する合成高分子の性質を理解したか。
(3)合成高分子による生物機能の高度利用に関して自分なりの工学的展望が描けるか。

【留意事項】

受講者は有機化学および高分子化学の基礎知識を要する。

【担当教員】

木村 悟隆 (KIMURA Noritaka)

【教員室または連絡先】

生物1号棟554室
Room 554, Building of BioEngineering

【授業目的及び達成目標】

生体高分子や合成高分子を対象として、分光学を応用した構造・物性評価の手法とその実例について述べる
Spectroscopic methods for estimation of structures and properties will be explained for biopolymers and synthetic polymers. Some applications of these techniques will be also introduced.

【授業キーワード】

NMR, Raman, 蛍光, コンホメーション, 配向, 液晶, 結晶
NMR, Raman, Fluorescence, Conformation, Orientation, Liquid Crystals, Crystals

【授業内容及び授業方法】

パワーポイントを用いて解説する。講義中に特に取り上げてほしい測定法や事柄の提案があれば、それにも触れる。授業の補足説明, 休講連絡等にメーリングリストを用いる。
Whole explanations will be supplied with PowerPoint. Mailing list will be used for supplemental explanations and other contacts.

【授業項目】

1. NMR, IR, Raman, 蛍光法の概説
 2. 一次構造の推定
 3. 孤立分子鎖のコンホメーション解析 (回転異性状態近似を含む)
 4. 孤立分子鎖の分子運動と分子形状
 5. 合成高分子固体の相構造解析 (結晶, 非晶, ブレンド)
 6. 異方相 (液晶, 2分子膜など) における分子配向と分子運動
 7. 生体高分子と分光法
 8. 高分子の分子動力学シミュレーション
1. Brief Introduction of NMR, IR, Raman, and Fluorescence Techniques
 2. Estimation of Primary Structure
 3. Conformational Analysis of Isolated Molecular Chain (Including RIS Analysis)
 4. Molecular Dynamics and Dimensions of Isolated Molecular Chain
 5. Phase Analyses of Synthetic Polymers in the Bulk State (in the Crystalline, Amorphous, and Blend State)
 6. Molecular Orientation and Dynamics in the Anisotropic State (Liquid Crystals, Bilayer, etc.)
 7. Spectroscopy Related to Biopolymers
 8. Molecular Dynamics Simulation of Polymers

【教科書】

特に定めない。
No textbook is used.

【成績の評価方法と評価項目】

レポートによる。
Based on final report.

【留意事項】

連絡その他に電子メールを用いるので, 受講にはインターネットのメールアドレス (学内のstn等でも可. 携帯は不可) が必要です。

PowerPoint files used in the course are accessible on the following URL. Internet mailing address is required to take this course.

【参照ホームページアドレス】

<http://carbo.nagaokaut.ac.jp:8080/> (学内専用) または <http://vol.nagaokaut.ac.jp/ceas/> (同じ内容)
CEAS

Advanced Microbiology and Immunology

【担当教員】

福田 雅夫 (FUKUDA Masao)

【教員室または連絡先】

生物1号棟354室 / Room 354 in Bioengineering building
内線9405 / Phone 9405

【授業目的及び達成目標】

生物機能工学において微生物の利用は重要な応用分野の一つである。この分野において不可欠な微生物に関する専門的な考え方や知識を習得することが目的である。生物機能工学において微生物が関わる分野には(1)微生物を生産に利用する分野と(2)有害微生物の害を防ぐ分野がある。学部の講義では(1)に重点をおいた。本講義では(2)に該当する医用微生物学および免疫学に重点を置き、病原性微生物の感染と感染防御・化学療法、免疫応答と免疫検査法について確実に理解することを目標とする。

The aim of this class is to learn the strategy and the knowledge in microbiology, whose application is a key technology of bioengineering. Among the fields of microbiology, (1) application of microorganisms for production, and (2) prevention of the damage by harmful microorganisms, the undergraduate class in microbiology emphasizes the former. This graduate class emphasizes the latter, that is medical microbiology and immunology. The goal of this class is to fully understand pathogenic microorganisms, prevention of their infection, chemical therapy, immune response, and immunological test.

【授業キーワード】

病原性微生物、ウイルス、抗生物質、免疫系、予防接種、酵素抗体法、免疫応答
pathogenic microorganisms, virus, antibiotics, immune system, vaccination, enzyme immunoassay, immune response

【授業内容及び授業方法】

微生物の利用についての基礎知識の復習を行ったのち、病原性微生物の感染と感染防御・化学療法、免疫応答と免疫検査法に関して基本事項とそれぞれの項目の先端的な知識や話題を紹介する。授業は配布する資料に基づいて進める。

After reviewing the basic knowledge of microbiology, This class cover the basic and hot topics of pathogenic microorganisms, prevention of their infection, chemical therapy, immune response, and immunological test using the supplementary materials provided.

【授業項目】

- A. 微生物の利用:(1)増殖と培養技術、(2)分類・同定、(3)検出技術、(4)遺伝育種
- B. 病原性微生物:(1)細菌、(2)ウイルス、(3)真菌、(4)原虫、
- C. 感染と防御:(1)食中毒、(2)感染、(3)滅菌と消毒、(4)化学療法
- D. 免疫:(1)抗原と抗体、(2)免疫検査、(3)モノクローナル抗体、(4)免疫担当細胞、(5)免疫応答、(6)免疫療法、(7)免疫不全
- A. Application of microorganisms: (1) growth and cultivation, (2) taxonomy and identification, (3) detection, (4) genetic breeding
- B. Pathogenic microorganisms: (1) bacteria, (2)viruses, (3)fungi, (4)protists
- C. Infection and Defense: (1) food poisoning, (2) infection, (3) sterilization and disinfection, (4) antimicrobial chemotherapy
- D. Immunology: (1) antigen and antibody, (2) immunological test, (3) monoclonal antibody, (4) immune cells, (5) immune response, (6) immunotherapy, (8) immunological disorders

【教科書】

レジメと資料を毎回配布する。
Supplementary materials will be provided each time.

【参考書】

「絵とき免疫学の知識」(垣内史堂著)オーム社
「微生物学・免疫学」(緒方幸雄監修)医学教育出版社
“Microbiology, principles and explorations, 6th edition”, J.G.Black, John Willey & Sons, Inc.

【成績の評価方法と評価項目】

提出されたレポートにて成績の8割を、出席回数にもとづいて成績の2割を評価する。尚、規定の出席回数を達成した者を評価対象とする。

Evaluation will be made based on your reports (80% of the score) and your attendance (20% of the score), and is not made for rare attendants.

【留意事項】

受講に際して知識を持っていることが望ましい科目は生化学、分子生物学である。

It is preferable to have knowledge on microbiology, biochemistry and molecular biology prior to this class.

【担当教員】

政井 英司 (MASAI Eiji)

【教員室または連絡先】

Room 355, Bioengineering Bld.

【授業目的及び達成目標】

The learning objectives for this course are:

- 1) To increase your understanding of molecular genetics.
- 2) To introduce the essential principles and processes of molecular genetics.
- 3) To introduce some important methods and experimental techniques used in the molecular genetics.

【授業キーワード】

transcription, protein synthesis, regulation of transcription, splicing, replication, cloning, restriction enzymes, DNA ligase, DNA polymerase, RNA polymerase, nucleases, kinase, polymerase chain reaction, DNA sequencing, site-directed mutagenesis, recombinant protein

【授業内容及び授業方法】

This course is designed as an introduction to the current subject of molecular genetics and the molecular genetic research methodologies.

【授業項目】

1. Prokaryotic gene expression
2. The operon structure
3. Protein synthesis
4. Replication of DNA
5. Protein localization
6. Eukaryotic gene expression
7. Nuclear splicing
8. Polymerase chain reaction
9. Site-directed mutagenesis
10. Restriction enzymes and modification enzymes
11. Recombinant protein expression in E. coli

【教科書】

Handouts will be used.

【参考書】

Gene VIII by Benjamin Lewin
Molecular Cloning : A Laboratory Manual, 2nd ed. / 3rd ed., by Sambrook et al.
Molecular Biology of the Gene, 5th ed., J.D. Watson et al.

【成績の評価方法と評価項目】

Grades will be based on the following: 80% examination or report, 20% attendance

【留意事項】

The student will be expected to understand some basic molecular biology.

【担当教員】

本多元 (HONDA Hajime)

【教員室または連絡先】

生物棟657, Build. Dep. BioEng. 6F 657, tel:0258-47-9421

【授業目的及び達成目標】

我々はどのようにして“動いて”いるのでしょうか？生き物の運動は構成するタンパク質などの“物質”の運動とどういった関係にあるのでしょうか？こう考えると、この疑問は分子レベルの運動にまで遡ることになります。この講義では、さまざまな生物の運動を、アクチンと呼ばれるタンパク質の性質に着目して考えます。アクチン繊維に関する最近の研究成果を含め、詳細にわたって説明します。以下に講義項目を示しますが、状況に応じて変える事があります。

【授業キーワード】

Muscle, Actin, Myosin, Motility, Molecule, Contractile Protein

【授業内容及び授業方法】

授業は配布資料に合わせてプロジェクターを用いて行います。

【授業項目】

Contents of the lecture:

1. Actin-Myosin Interaction. An Overview.
アクトミオシン相互作用の概要
2. Structural Dynamics Due to Their Strong and Weak Interactions.
Strong and Weak Interactionsと動的構造
3. Fluorescent Resonance Energy Transfer.
FRET法について
4. Using A Mutant Actin.
突然変異株を用いたアクチン分子の研究
5. Electrostatic Charges Involved in The interaction.
静電的相互作用
6. The Alanine-Scanning Mutagenesis.
Alanine-Scanning法
7. Coupling between Chemical and Mechanical Events.
化学反応と力学反応の共役
8. Actin-Based Calcium Regulation. An Overview.
カルシウムイオンによるアクチン依存型収縮調節機能の概要
9. Cooperativity
アクトミオシンにおける協同性
10. Motility Assays its Merits and Demerits.
In Vitro Motility Assayの功罪
11. Ultrastructural Basis of Thin Filament.
細い繊維の微細構造
12. The Role of Troponin.
トロポニンの役割
13. And the Role of Tropomyosin.
トロポミオシンの役割

【教科書】

教科書は用いません。

【参考書】

Molecular Mechanisms in Muscle Contraction. Macmillan Press. (1990). J.M.Squire, Eds.
Molecular Interactions of Actin: Actin-Myosin Interaction and Actin-Based Regulation. Springer.
(2002) D.D.Thomas & C.G.dosRemedios, Eds.
ナノイメージングNano Imaging和田昭允NTS2008

【成績の評価方法と評価項目】

細胞生物学、生化学、力学などの基本的な知識が必要。出席はとりませんが、講義の終盤に出す課題を提出してもらいます。成績は最終試験のみで評価します。(最終試験はレポートで代用することがあります)

【留意事項】

※平成元号の奇数年度に開講される科目である。

【担当教員】

古川 清 (FURUKAWA Kiyoshi)

【教員室または連絡先】

生物棟556室 (古川)

【授業目的及び達成目標】

生命の第三の鎖といわれているタンパク質や脂質に結合した糖鎖なくして、細胞や個体は機能しないことが明らかになりつつある。こうした糖鎖の構造と機能を学び、生命現象をより深く理解すると共に、糖鎖の医療やバイオテクノロジーへの応用力を養う。

【授業キーワード】

糖タンパク質、糖脂質、プロテオグリカン、動物レクチン、糖鎖機能、細胞分化、個体発生、糖鎖変異動物、ヒト疾患、糖鎖基盤技術の応用

【授業内容及び授業方法】

複合糖質といわれる糖タンパク質、糖脂質、プロテオグリカン、GPI-アンカーについて、その構造と生合成を復習する。これらの糖鎖の機能を、細胞分化、個体発生、ヒト疾病、糖鎖変異株細胞、遺伝子改変動物において解説する。糖鎖工学の基盤技術である糖鎖の化学合成、酵素合成の技術、生合成の阻害剤を解説し、糖鎖工学のバイオテクノロジーや医学への貢献を最新の研究を通して紹介する。

【授業項目】

1. 複合糖質糖鎖の構造-1
2. 複合糖質糖鎖の構造-2
3. 複合糖質糖鎖の生合成
4. 動物レクチン / 発見と分類
5. 動物レクチン / C-, I-, P-型レクチン
6. 動物レクチン / S-型レクチン, セレクチン
7. 個体発生、細胞分化と糖鎖
8. 細胞の癌化と糖鎖
9. モデル生物、原虫、寄生虫における研究
10. 糖鎖変異株細胞、遺伝子改変動物を用いた研究
11. 糖鎖の化学的・酵素的合成、生合成阻害剤
12. ヒト疾患と複合糖質糖鎖
13. 糖鎖研究の最前線の紹介-1
14. 糖鎖研究の最前線の紹介-2
15. バイオテクノロジーと医学における糖鎖工学の意義

【教科書】

鈴木康夫 監修:糖鎖生物学 (Essentials of Glycobiology (1999) Varki et al., Eds., Cold Spring Harbor Laboratory Pressの日本語訳)の後半をベースとするが、必ずしも購入の必要はない(原著第二版が2009年に出版)。適宜資料を、配付する。

【参考書】

グリコバイオロジーシリーズ 全6巻 (講談社, 1993)
糖鎖 全3巻 (東京化学同人, 1994)
糖鎖生物学、蛋白質核酸酵素43巻 (共立出版, 1998)
糖鎖分子の設計と生理機能、化学総説48巻 (学会出版センター, 2001)

【成績の評価方法と評価項目】

レポート(または課題のプレゼンテーション)と出席に基づいて、評価する。

【留意事項】

受講者は、生命科学、生化学、分子生物学、細胞生物学、糖鎖工学、遺伝子工学の基礎知識を有していることが望ましい。

【担当教員】

三木 徹 (MIKI Toru)

【教員室または連絡先】

生物1号棟454号室 内線9430 E-mail: torum@vos

【授業目的及び達成目標】

この講義ではシグナル伝達を「がん」という視点から再訪問する。がん細胞にはシグナル伝達に関する色々な遺伝子に変化が見いだされている。このような遺伝子の変異は、周りの細胞とコミュニケーションできなくなった異常な細胞を生じさせる、これらの細胞の多くは死滅すると考えられるが、中にはまれにがん細胞に変化してゆくものが現れる。従って、種々のシグナル伝達経路をよく理解し、がん細胞においてこれらの経路にどのような異常があるのかを知ることは、生命の根幹を知る上で非常に重要な事である。またがん発生のメカニズムを知ることには多細胞生物の成り立ちを知ることにつながる。本講義ではこれらの知識を活用して有効な新しい抗がん剤を開発するにはどのようにすればいいのかを考察する。

Based on the knowledge learned in "The principle of signal transduction", this Advanced course of signal transduction will re-visit various signal transduction pathways from the view of the molecular mechanisms of cancer.

Detailed knowledge on signal transduction and cancer will contribute to understand how multi-cellular organisms have been developed. Each pathway of signal transduction will be discussed in detail, and you will learn how abnormality of these pathways causes cancer.

【授業キーワード】

低分子Gタンパク質、蛋白リン酸化酵素、増殖因子、受容体、細胞分裂、がん遺伝子、転移、抗がん剤

G protein, protein kinases, growth factor, receptor, cell growth, cell division, cell cycle, S phase, mitosis, cytokinesis

【授業内容及び授業方法】

本講義では「シグナル伝達概論」で学んだ基礎的な事項に基づいて、更に詳しい内容を学ぶ。「シグナル伝達概論」で学んだ内容も簡単に復習するので、必ずしも「シグナル伝達概論」を履修している必要はない。ここではシグナル伝達の一般原則をよく理解すると共に、これらのシグナルにより多数の細胞が個体を維持する機構を理解し、生命の本質を知ることが肝要である。またがんの生成の分子機構をよく理解し、新しい抗がん剤の開発法について考えることも重要な課題となる。理解を試すため、授業中に小テスト(quiz)や演習を行う。演習では発表に対して質問することが重要である。

In the advanced course of "Signal Transduction", detailed mechanisms of various transduction pathways will be discussed. It is important to understand how cells use signal transduction pathways to communicate each other. In the latter half of the course, how to develop effective anti-cancer agents based on the knowledges of signal transduction will be discussed.

【授業項目】

- 1) 腫瘍ウイルス
- 2) がん遺伝子
- 3) 増殖因子とその受容体
- 4) シグナル伝達の異常とがん細胞の生成
- 5) がん転移の分子機構
- 6) 新しい抗がん剤、分子標的試薬、の開発

- 1) Tumor viruses
- 2) Cellular oncogenes
- 3) Growth factors and their receptors
- 4) Cytoplasmic signaling circuitry
- 5) Invasion and metastasis
- 6) The rational treatments of cancer

【教科書】

スライドのコピーをプリントとして配布するので、これに講義のメモをとれば、参考書を図書館で読む程度でかまわない。

【参考書】

"The Biology of Cancer" by Robert A. Weinberg (Garland Science)

【成績の評価方法と評価項目】

授業中に行う小テスト(50%)と課題のプレゼンテーション及びそれらに対する質問(50%)により評価とする。

The score will be the sum of the quiz (50%) and presentations (50%).

【留意事項】

専門用語の表記は英語を標準とする。レポートや試験においても、文章は日本語でも専門用語は英語で記載しなければならない。

【担当教員】

滝本 浩一 (TAKIMOTO Koichi)

【教員室または連絡先】

生物1号棟654号室

Eメール: koichi@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

薬物の機能を考察するために必要な基本概念について学習する。特に、作用・副作用、吸収・分布・代謝・排泄といった薬物濃度に影響を与える機構、さらに各種の病気に使用されている薬剤の作用機序と問題点について学習・考察する。

This course is designed to provide basic knowledge necessary for understanding how drugs work. Basic concepts such as efficacy and toxicity of drugs, as well as pharmacodynamics and pharmacokinetics, will be taught. Later classes focus on individual diseases/risk factors and molecular targets and mechanisms of drugs that have been used to treat these diseases and their symptoms.

【授業キーワード】

Drug Efficacy, Toxicity, Phamacodynamics, Pharmacokinetics, Agonist, Antagonist

【授業内容及び授業方法】

基本概念に関する講義(前半)と実例に関する議論と発表(後半)から構成する。後半の講義では、学生が病気を選びそれに使われている薬剤また可能な治療法について発表を行う。さらに薬物治療における話題や問題点を取り上げ、新聞・論文その他の文献の購読とそれに関する議論を行う。

In the first half of classes, lectures will provide basic concepts in drug actions. In the second half of classes, students will choose one disease and present about currently-used drug(s) and/or potential drug target(s) for treating this disease or associated symptoms. In addition, actual episodes and topics in discovery and development of drugs, as well as problems associated with drug use, will be given for discussion.

【授業項目】

1. 薬物と毒物
Drugs and Toxins
2. 薬物の吸収・分布・排泄
Drug Adsorption, Distribution and Excretion
3. 薬物速度論
Pharmacokinetics
4. 薬物代謝
Drug Metabolism
5. 薬物の相互作用
Drug Interaction
6. 薬物の作用点
Drug Targets
7. 癌
Cancer Drugs
8. 心臓病
Drugs for Heart Diseases
9. 高血圧
Drugs for Hypertension
10. 糖尿病
Drugs for Diabetes
11. 抗炎症薬
Drugs for Inflammation
12. 痴呆その他の脳障害
Drugs for Alzheimer's and Other Neurodegenerative Diseases
13. 精神病
Drugs for Neurological Disorders
14. 幹細胞とその利用
Use of Stem Cells
15. 先進国と発展途上国の病気
Diseases for Developed and Developing Countries

【教科書】

Handouts and reading materials will be given in each session.

【参考書】

None

【成績の評価方法と評価項目】

Presentation (30%), participation in discussion (30%), and final report (60%)

【留意事項】

Handouts and reading materials will be in English.
平成年号の偶数年度に開講する。

【担当教員】

福本 一郎 (FUKUMOTO Ichiro)・内山尚志(UCHIYAMA Hisashi)松本義伸(MATSUMOTO Yoshinobu)

【教員室または連絡先】

生物1号棟654室

【授業目的及び達成目標】

現在の医療は高度な工学的技術の助けなしには一日たりともなしえない。医療現場で用いられる工学的機器をME機器(Medical Equipments)と呼ぶが、その研究開発・安全な使用・保守管理には特殊な知識と技術が要求され、学門領域を医用生体工学(Bio-Medical Engineering)あるいはより医療に密着した臨床工学(Clinical Engineering)と呼び、専門職は臨床工学者(Clinical Engineer)またはME技術者(Bio-Medical Engineer)と称される。

本講義では現在医療現場で用いられている最新のME機器システムの原理・構造・安全な使用方法の基礎を学習する。またME機器各論を座学として学ぶだけでなく、自主的な学習・論旨展開能力を養い、上級技術者としての討論・発表能力を習得するためにGroup Arbeteと呼ばれるグループ学習プロジェクト方式を採用する。Group Arbeteにおいては通常2名のグループに与えられた医用機器システムに関するテーマについて研究しレジメを出席者全員に配付して、オーバーヘッドを用いて発表し参加者の批判に対処する。本講義履修後には最新の知見に基づいて医用生体工学の現状と問題点を把握し、医療と工学の協力方法について自分なりの考えをもち、工学者として医学に貢献する際に医療スタッフと対等な立場で自由に議論できる能力を培うことを目標とする。

The modern medicine needs highly developed technical aids. The equipments which are applied to the clinical settings require special knowledge and technology for their development, safe usage and maintenances. In this lecture we shall learn the principles, structures and handling methods of medical equipments.

【授業キーワード】

医用機器システム 臨床工学 医用安全工学 医用生体工学
medical equipments, clinical engineering, medical safety,
biomedical engineering

【授業内容及び授業方法】

教科書の予習と復習を義務とする。講義はPPTを用いて教科書を中心に各種ME機器の原理と構造を学び、機器の現状を知る。単位取得希望者は複数のメンバーのグループに分けられ、与えられたテーマについてレポートをまとめ全員の前で発表することを義務とするGroup Arbeteが課される。

【授業項目】

- ・ME機器総論
- ・医用計測技術
- ・生体現象の情報処理
- ・生体イメージング技術
- ・生体制御代行と治療
- ・医療情報システム
- ・ヘルスケアシステム
- ・医用機器の安全性と信頼性

【教科書】

ME技術振興協会編:「ME技術マニュアル」、コロナ社

【参考書】

Per ASK/ Ake Oberg :「医用安全工学」、金芳堂

【成績の評価方法及び評価項目】

最終試験の点数・レポートの点数およびGroup Arbeteの評点により総合評価する。
by reports and examinations

【留意事項】

本講義を履修しようとするものは、学部3年の講義「解剖生理学」および学部4年の「神経科学」を履修しているかまたはそれに匹敵する人体解剖生理学の知識を有することが求められる。また学部4年の「医用生体工学」を履修して医用生体工学に関する基礎的な知識を備えておくことが望まれる。

【担当教員】

未定

【授業目的及び達成目標】

細胞は、脂質と蛋白質とからなる生体膜で覆われている。生体膜の脂質構造は、外界と細胞内の間を仕切り、生命に必要な物質やイオンの自由な透過を妨ぐ。一方、生体膜に組み込まれた蛋白質はイオンや物質の透過経路を形成する。生体物質は細胞内において高濃度に保存されている。またイオンは一定の値に保たれているが、こうした調節は生体膜の蛋白質が行っている。本講義では、生体膜の特徴を特に蛋白質に注目し、化学的面と生物学的面の両面から理解することを目的とする。このような生体膜は人工的にも作成でき、薬物の生体内での輸送手段となるなど、生物工学や医療の面からも興味を持たれている。また、この生体膜蛋白質の遺伝子が異常になる遺伝病は多数知られており、難病となっている。病気の理解の上からものような最新の知見があるのか学ぶ。細胞の機能の理解の根本課題として、生体膜を理解することは必要であり、細胞生物学を理解する上で必要な最低限の知識を習得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

生体膜、膜透過経路、能動輸送、シグナル伝達、膜蛋白質遺伝子と遺伝子工学、人工膜、生体膜異常の病気

【授業内容及び授業方法】

参考書としてエッセンシャル細胞生物学(B.Alberts等、中村、松原翻訳、南江堂)を利用する。この教科書に準じた生体膜機能と構造の基礎を概述する。その上で、特に物質やイオンの能動透過に関わるポンプとトランスポーターについて詳しく述べる。最後に講師の最近の研究の一端を紹介する。

【教科書】

参考書として、エッセンシャル細胞生物学を用いる。

【成績の評価方法と評価項目】

いくつかの課題を講義中に示すので、解答をレポートとして提出する。

【留意事項】

※平成元号の偶数年度に開講される科目である。

【担当教員】

未定

【授業目的及び達成目標】

自然界の微生物は、環境中の物質循環や生態の理解、バイオテクノロジーに大変重要であるが、ほとんどが難培養であり、従来の培養に基づく微生物学的手法では研究が困難であった。最近では分子生物学的手法により培養を介することなく微生物の多様性や機能、ゲノム解読、相互作用の研究が進展して、新しい生物機能の解明やその応用研究に結びついている。本講義では、分子微生物生態学的研究技術とその応用について基礎的な知識を習得することを目標とする。また、微生物が群集として存在して、共生(相互作用)しあって効率的に働く機構の理解も目的とする。

【授業キーワード】

共生、微生物、分子生態、バイオマス資源、メタゲノム

【授業内容及び授業方法】

分子微生物生態学的研究における基礎技術を概説し、特に特にバイオマス資源の効率的な利用に働くシロアリの難培養の共生微生物群についての研究を中心にその応用例を紹介する。バイオマス資源の効率的利用に果たす微生物間共生の役割についても考察する。

【参考書】

Ohkuma, M. 2008. Symbioses of flagellates and prokaryotes in the gut of lower termites. Trends Microbiol. 16: 345-352.

大熊盛也、本郷裕一、野田悟子. 2008. シロアリ腸内微生物ーバイオマス資源を高効率に利用する多重共生ー 蛋白質核酸酵素 vol.53, No.14, pp. 1841-1849.

大熊盛也、本郷裕一. 2009. 動物と窒素固定細菌の共生は成立するか？ーシロアリ腸内での共進化・共生機構からみえてきたもの 化学と生物 vol.47, No.5, pp. 307-309.

【留意事項】

※平成元号の偶数年度に開講される科目である。

【担当教員】

未定

【授業目的及び達成目標】

人間の視覚や聴覚などの感覚機能に関して学び、それら生体の巧妙な仕組みを理解することにより、工学分野や医療分野への応用、それら融合領域への応用のためのベース作りを目指す。視覚に関しては眼球の光学的メカニズムや網膜－神経系の構造と機能を、聴覚に関してはおもに平衡機能に関して学ぶ。さらに高齢社会において重要性を増す脳神経系疾患の一つであるアルツハイマー型認知症と視覚機能との相関に着目し、認知機能の加齢効果や認知障害についても学ぶ。

【授業キーワード】

眼光学系、網膜－視神経系、眼球運動、瞳孔反応、視野、平衡機能、アルツハイマー型認知症

【授業内容及び授業方法】

視覚、聴覚、触覚などの感覚器の機能について、パソコンによるプレゼンテーションを中心に説明する。さらに人体模型を用いてそれらの詳細構造を説明するとともに、簡単な心理物理実験を行って感覚器の構造と機能に関して詳述する。また講師の所属する企業にて開発した生体計測機器などを用いてデモンストレーションを行うことにより、視覚機能と平衡機能との相関関係についての理解を促す。さらに論文報告などを紹介することにより、視覚認知機能への加齢の影響やアルツハイマー型認知症による影響について述べる。

【留意事項】

※平成元号の偶数年度に開講される科目である。

【担当教員】

未定

【授業目的及び達成目標】

未定

【授業キーワード】

未定

【授業内容及び授業方法】

未定

【授業項目】

未定

【教科書】

未定

【成績の評価方法と評価項目】

未定

【留意事項】

※平成元号の偶数年度に開講される科目である。

【担当教員】

秋元 義弘

【教員室または連絡先】

非常勤講師
杏林大学医学部解剖学教室
〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2
yakimoto@ks.kyorin-u.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

タンパク質や糖鎖の性状や分布を個々の組織、細胞レベルでin situで明らかにしたり、実際に細胞間相互作用が引き起こされている現場でそれを可視化したりするためには組織細胞化学的手法の適用が必要である。組織細胞化学では、各成分に対する特異的な標識プローブを用いて、それらの局在を光学顕微鏡あるいは電子顕微鏡レベルで探究する。本講義では、この技術の概略を理解するとともに、特に近年、発生、分化、がん化、がんの転移、老化、免疫などさまざまな重要な役割を演じていることが明らかにされつつある複合糖質の分布を検索するための技法およびその応用についての基礎知識を習得することを目標とする。

【授業キーワード】

組織細胞化学、免疫電顕、レクチン、糖鎖抗体、糖タンパク質、糖脂質、糖転移酵素

【授業内容及び授業方法】

生体を構成する組織・細胞の微細構築を解説するとともに、タンパク質ならびに複合糖質の機能局在を調べる組織細胞化学の基礎的技術と応用について解説する。更に複合糖質に焦点を当てて、糖鎖が組織や細胞の構築にどのように関与しているかについて、その病的変化にも言及しつつ考察する。授業は配布資料に基づき行う。

【授業項目】

1. 組織細胞化学の基礎的技術と応用
蛍光顕微鏡、レーザー顕微鏡、電子顕微鏡
2. タンパク質および複合糖質の組織、細胞内分布の検索法
3. 核および細胞質に存在する糖
4. 病気に伴う複合糖質の変化

【教科書】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席、レポート、質疑応答を総合的に判断する。

【留意事項】

- 1-2日間で行われる集中講義
※平成元号の奇数年度に開講される科目である。

【参照ホームページアドレス】

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/anat2/>

【担当教員】

三田 肇

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

生命の起原に関わる解析手法など学び、生物機能の応用を考える上での一助とする。この授業でのデータなどの詳細を記憶する必要はない。しかし、このような学問分野・研究手法があること、その考え方などを知識として留めておいて貰いたい。将来、職務としてあるいは科学技術を学んだ人間として日常生活で生物活動と環境問題を考えるときに思い出して、課題を考えるヒントとして欲しい。

【授業キーワード】

地球と生命の共進化、アストロバイオロジー、生命の起原、化学進化

【授業内容及び授業方法】

本授業は講義形式で行う。授業項目に記載された内容を、受講学生の履修暦に応じて、多少内容を変えながら、講義を進めていく。

【授業項目】

- 1: 地球上の生物の歴史
- 2: 地球外に生命は生存し得るか
- 3: 地球外物質中の有機物分析(手法)
- 4: 地球外物質中の有機物分析(分析例)
- 5: 生体関連有機物の生成(モノマー)
- 6: 生体関連有機物の生成(ポリマー)
- 7: 地球外生命探査に向けた分析技術

【教科書】

なし(資料はプリントとして配布予定)

【参考書】

アストロバイオロジー(小林憲正、岩波科学ライブラリー・岩波書店)、化学進化(原田馨、UPバイオロジーシリーズ・東京大学出版会)

【成績の評価方法と評価項目】

授業中に課題を提示し、提出レポートの内容により成績を評価する。なお、レポートは、単なる知識・情報を列挙するのではなく、各自の論理的な考え方・判断などが分かるように作成すること。

【留意事項】

※平成元号の奇数年度に開講される科目である。

【参照ホームページアドレス】

<http://www.fit.ac.jp/~mita/>

【担当教員】

大沼 清(OHNUMA Kiyoshi)

【教員室または連絡先】

生物棟5階560号室

【授業目的及び達成目標】

老化は多数の要因が関与する生物現象であり、現代の高齢化社会においては重要な研究対象となっている。本講義では老化・加齢に関する多様な項目について概説を行い、教員の研究成果と対照してその理解を深める。

【授業キーワード】

老化、加齢、寿命、酸化ストレス、老年病、早老症、老化抑制分子

【留意事項】

※平成元号の奇数年度に開講される科目である。

【担当教員】

未定

【授業目的及び達成目標】

感覚受容の一つである嗅覚受容の分子メカニズムを概説する。

【授業キーワード】

嗅覚受容体、嗅球、糸球、神経、匂い地図

【授業内容及び授業方法】

匂い受容の仕組み、脳の匂い地図について、他の感覚系と比較して解説する。

【授業項目】

1. 人の5つの感覚
2. 脳における感覚地図(特に視覚、体性感覚について)
3. 匂い分子の受容機構
4. 匂い情報の脳への伝達機構
5. 脳(嗅球)における匂い地図
6. 嗅覚行動の制御機構

【留意事項】

- ※平成元号の奇数年度に開講される科目である。
- ※平成23年度開講せず。

【担当教員】

山口 隆司 (YAMAGUCHI Takashi)

【教員室または連絡先】

環境システム系 5階 570

【授業目的及び達成目標】

This course offers comprehensive knowledge essential to those who intend in future to be involved in the field of environmental engineering; describing geo-bio-chemical behaviors of natural water systems, such as rivers, lakes, oceans waters, estuaries, ground-waters, and soil waters as well as processes involved in water and wastewater technology. The main theme of the course is the fundamental principles of chemical kinetics and thermodynamics regulating a variety of geo-bio-chemical phenomena taking place in water systems, including the following topics.

【授業キーワード】

natural water systems, chemical kinetics, thermodynamics, geo-bio-chemical

【授業内容及び授業方法】

Geo-bio-chemical behaviors of natural water systems. The course meets in a lecture/discussion format. It has some homework assignments, and a final paper.

【授業項目】

river waters
lake waters
ocean waters
estuaries waters
ground-waters
soil waters
processes involved in water and wastewater technology
chemical equilibrium
acid-base

【教科書】

undecided

【参考書】

Chemistry for environmental Engineering, 4th ed., McGraw-Hill, Inc.

【成績の評価方法と評価項目】

Homework (40%), Quizzes (20%), Final Examination (40%)

【留意事項】

本講義内容はAdvanced Water Environmental Engineering 2に発展するので両者の履修が望ましい。

【参照ホームページアドレス】

<http://ecolab.nagaokaut.ac.jp/e/>
Aqua and Soil Environment Control Engineering Laboratory

【担当教員】

山口 隆司 (YAMAGUCHI Takashi)

【教員室または連絡先】

Environmental Engineering Building 5th floor, room 570

【授業目的及び達成目標】

The objective of the course is for students to develop understanding of precipitation/dissolution and oxidation/reduction in aquatic chemistry. Additional topic is also conducted the stoichiometric and kinetic fundamentals of microbiological processes used in environmental control and remediation.

【授業キーワード】

Water Environment, Microbiological processes, Kinetics,

【授業内容及び授業方法】

Theory and practice of microbiological processes used in pollution control. The course meets in a lecture/discussion format. It has some homework assignments, and a final paper.

【授業項目】

Water chemistry
Suspended-Growth Kinetics
Microbial growth and substrate utilization
Mass balances for a simple chemostat
Biofilm Kinetics
Utilization and diffusion of substrate
Nitrification Processes
Denitrification Processes
Methanogenic Processes

【教科書】

undecided

【参考書】

Water chemistry 2nd ed.
Chemistry for environmental Engineering, 4th ed., McGraw-Hill, Inc.

【成績の評価方法と評価項目】

Homework (40%), Quizzes (20%), Final Examination (40%)

【留意事項】

本講義内容はAdvanced Water Environmental Engineering 1との履修が望ましい。

【参照ホームページアドレス】

http://ecolab.nagaokaut.ac.jp/envaio_j/index.html
Aqua and Soil Environment Control Engineering Laboratory

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【授業目的及び達成目標】

異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生が、異分野チーム内でのディスカッションを通して、自らの研究のプロポーザルを提示し、先導的研究能力を養成することを目的とする。この科目により各自の研究の説明能力、専門能力、創造力、デザイン能力を育成することを目標とする。

【授業キーワード】

リサーチプロポーザル、異分野融合チーム編成学習、グローバル、環境倫理、国際的価値観、優れたものづくり

【授業内容及び授業方法】

自らの研究のプロポーザルを提示し複数の指導教員とともに専門性、実現性、社会への貢献度の観点から議論した上で、これを実施計画書としてまとめる。

【成績の評価方法と評価項目】

リサーチプロポーザルおよび実施計画書の内容により評価する。

【留意事項】

受講者は異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生に限定する。修士課程2年間を通して実施できるグローバル討論・協働学修の受講をへた後に受講を推奨することが望ましい。

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【授業目的及び達成目標】**【授業目的】**

異分野融合一貫コース学生が、指導教員ならびにCo-op教員のメンタリングのもと、それぞれの立案する融合研究の具現化に係る先端技術についての討論や発表会を通じて、異なる分野の融合基盤技術を修得する。具体的には、チーム単位での討論を通じて、個々の専攻分野・研究課題と他分野との関連性や異分野の技術・価値観・倫理観を体得するとともに、複眼的な着想力・問題解決能力を研鑽・陶冶する。

【達成目標】

- 1.異分野融合研究の具現化のための課題立案とディベート力の体得.
- 2.複眼的・学際的な思考能力と問題解決能力の修得.
- 3.工学のみならず人文社会科学係る異分野学生との協働学修を通じた広い視野の体得.
- 4.各教員・Co-op教員からのメンタリングを通じた指導能力やコンピテンシの研鑽と陶冶.
- 5.要素還元論的な思考を補完する統合能力の体得.

【授業キーワード】

チーム学修, 討論, 産学協働学修

【授業内容及び授業方法】

異分野チーム編成の各チームにおいて、指導教員とCo-op教員のメンタリングのもと、各自の研究課題と関連した具体的な融合的な研究課題をチーム単位で立案し、その課題遂行に関連して派生する技術的・社会的・倫理的な問題点等についてその解決策を討論し、具体的なアプローチを提案する。

【授業項目】

- 1.指導教員とCo-op教員からのメンタリングによる異分野融合研究課題の立案と討論会
- 2.課題遂行における技術的・社会的・倫理的な問題の解決策の討論
- 3.自らの研究課題との関連性についての考察と意見交換
- 4.チーム単位での討論成果発表資料作成と提出
- 5.チーム討論成果発表会の開催と指導教員とCo-op教員を加えた総合討論

【教科書】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績の評価方法と評価項目】

各チームの討論会・成果発表会ならびに提出した資料により、総合点60点以上を合格とする。

【留意事項】

産学協働のCo-op教育であるので、守秘義務が関係する場合には遵守のこと。

【参照ホームページアドレス】

(準備中)

異分野チーム編成融合型グローバルリーダー養成

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

生物系各教員室

【授業目的及び達成目標】

異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生が、各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

異分野融合基礎研究、セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教員のもとで、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教員の指示による。

【教科書】

指導教員の指示による。

【参考書】

指導教員の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【留意事項】

受講者は異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生に限定する。

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

生物系各教員室

【授業目的及び達成目標】

異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生が、各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

異分野融合基礎研究、セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教員のもとで、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教員の指示による。

【教科書】

指導教員の指示による。

【参考書】

指導教員の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【留意事項】

受講者は異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生に限定する。

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

生物系各教員室

【授業目的及び達成目標】

異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生が、各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

異分野融合基礎研究、セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教員のもとで、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教員の指示による。

【教科書】

指導教員の指示による。

【参考書】

指導教員の指示による。

【成績の評価方法及び評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【留意事項】

受講者は異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生に限定する。

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

生物系各教員室

【授業目的及び達成目標】

異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生が、各研究室において、学生の研究題目に直接、間接に関係する分野の基礎的な学問成果と研究状況を学び、研究を進める上で必要な考え方、方法、技術などを習得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

異分野融合基礎研究、セミナー、修士研究、文献輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教員のもとで、内外の基礎的な論文や著書の輪講、セミナーでの発表・討論を行うことによって進める。

【授業項目】

指導教員の指示による。

【教科書】

指導教員の指示による。

【参考書】

指導教員の指示による。

【成績の評価方法及び評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【留意事項】

受講者は異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生に限定する。

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

生物系各教員室

【授業目的及び達成目標】

異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生が、所属する研究室の生物機能工学研究分野において、実験計画の作成をはじめ、実験の遂行、実験結果の解析と考究などのプロセスを体験し、自立して研究を遂行できる能力を習得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

異分野融合基礎研究、修士研究、生物分子機能工学、細胞機能工学、高次生体機能・医用工学

【授業内容及び授業方法】

各研究室において、学生の希望と指導教員の指導によって決めた一つの研究テーマについて実験・研究を行い、得られた成果を纏め上げる。日常的な指導と、経過あるいは纏まった形での定期的な発表における指導の両面から行う。

【授業項目】

指導教員の指示による。

【教科書】

指導教員の指示による。

【参考書】

指導教員の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【留意事項】

受講者は異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生に限定する。

【担当教員】

各教員・Co-op教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

生物系各教員室

【授業目的及び達成目標】

異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生が、所属する研究室の生物機能工学研究分野において、実験計画の作成をはじめ、実験の遂行、実験結果の解析と考究などのプロセスを体験し、自立して研究を遂行できる能力を習得することを達成目標とする。

【授業キーワード】

異分野融合基礎研究、修士研究、生物分子機能工学、細胞機能工学、高次生体機能・医用工学

【授業内容及び授業方法】

各研究室において、学生の希望と指導教員の指導によって決めた一つの研究テーマについて実験・研究を行い、得られた成果を纏め上げる。日常的な指導と、経過あるいは纏まった形での定期的な発表における指導の両面から行う。

【授業項目】

指導教員の指示による。

【教科書】

指導教員の指示による。

【参考書】

指導教員の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

輪講での内外の文献の理解の程度やセミナーでの発表・討論の内容によって評価する。

【留意事項】

受講者は異分野融合チーム編成型グローバルリーダー養成プログラムのコース学生に限定する。